

**2020年度（第17期）事業計画書**  
(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

特定非営利活動法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会

**2020年度 事業実施の方針**

2020年度の事業実施方針は以下のとおりである。

- インド・ウッタールプラデシュ州プラヤグラージ県を中心とし、大豆とモリンガの普及事業及び縫製・手工芸品事業に力を入れて、有機農業組合の自立促進、アーシャ学校の特別教育活動、農村リーダー養成の協力・支援に取り組む。
- 前期から開始された民間助成団体の助成金と外務省日本NGO連携無償資金協力の供与資金、及び会費・寄付金等を有効に活用し、各事業の目的、目標に沿って活動を行う。
- 特定非営利活動を持続的に発展させる自立した基盤を構築するため、広報の強化により認知度向上を図り、会員数及び寄付の増強に努めるとともに、日本とインドにおいて販売活動を拡充する。

**I. 特定非営利活動に係る事業**

**1. 農村開発・農業開発支援事業**

**1-1 貧困農民のための収入向上活動事業**

- アラハバード有機農業組合（AOAC）の有機野菜・日本米の栽培、野菜・果実加工食品の質の向上、インド大都市の販路拡大、地元での農村物の販売促進のための支援活動を行う。
- 農村女性によるNGOアーシャ ビカス セワ サミティ（AVSS）の保健部門の自立と健康向上のため、大豆、モリンガ、緑黄色野菜の栽培とそれらの加工・販売の協力支援を行う。また、農作物栽培のための小規模生産グループ（SPG）設立支援を行う。
- AVSSの縫製部門アーシャ ビカス シャクティ（AVS）が製作する手工芸品のデザイン及び縫製技術の指導、新製品の開発、販売促進の支援を行う。

**2. 人材育成支援事業**

**2-1 持続可能な農業・農村開発コース（SCSAD）運営支援および研修所の環境向上**

インド、ミャンマー、日本から学生を受け入れ、9カ月間の研修により、国際協力、農村開発、農業開発等で献身的に働く農村リーダーを養成する。但し、4名以上の入学希望者がなければ、今期は休止する。また、持続可能な農業や菌床キノコ栽培に関する短期研修を企画実行する。

**2-2 僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業**

アーシャ学校の保健教育、環境教育、農業教育、美術教育などの特別学級の支援、生徒への奨学金の提供を行う。

### 2-3 裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援

プロフェッショナル研修を開催し、専門家より縫製技術とデザインの指導を受け、フェアトレードで扱う上質な手工芸品の開発を行う。日本とインドでマーケティング活動を行い、持続的に販売できる商品を探る。また、農村改善センターで開催する基礎裁縫研修の支援を行う。このため、アジア生協協力基金より助成金を受ける。

### 2-4 農村保健衛生改善支援事業

シニア農村保健ボランティア（SVHV）のスキルアップを行うとともに、協働してモリンガ栽培に参加する農村、SPG の倍増、モリンガ粉末の加工・販売の拡充、さらに、モリンガを使った健康料理セミナーの開催等を行い、農村住民、特に幼児の栄養改善、健康向上を目指す。このため、味の素ファンデーションより助成金を受ける。

### 2-5 農村女性所得創出・地位向上支援事業

農村普及ボランティア（VEV）8名に対し、大豆の栽培技術、大豆の栄養価と加工食品の料理法の研修・実習を行う。その後、VEV と協働して、農村女性に大豆の栽培と加工食品の調理等の指導・技術支援を行う。また、豆腐加工室・検査室を開設して豆腐製造を開始する。この事業は外務省日本NGO連携無償資金を受けて実施する。

## 3. 事業を推進するための調査研究、及び啓発・広報事業

### 3-1 ワークキャンプ・スタディツアー開催、訪問者受入

- インターンシップ研修プログラムは2021年3月に2週間程度開催する。
- スタディツアーは中止とする。

### 3-2 会報の発行

アーシャの活動、マキノスクールのプロジェクト活動を会員、支援者に理解していただくために、年3回（4月、8月、12月）、会報「アーシャ」を発行する。

### 3-3 広報活動の拡充

- ホームページ、Facebook 等による広報を拡充し、認知度向上、会員数と寄付の増強を狙う。
- 企業のCSR活動へのアプローチを開始し、企業から寄付を募集する。

### 3-4 日本国内における学生・市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、参加

新型コロナウイルス感染症の収束が見られ次第、セミナー、講演等を企画・実施する。

### 3-5 次期事業形成調査

インドにおける製造・販売事業の資金面、信用面、事業の許認可を強化するため、日本とインドで販売活動を拡充する。そのため、日本での販売、輸入に関する情報を収集する。

## 4. 災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業

新たに災害や紛争などが発生した場合は、活動可能な範囲で迅速な対応を実施する。

## II. その他の事業

### 1. バザー・チャリティ・販売事業

特定非営利活動を持続的に発展させる自立した基盤を構築するため、日本とインドにおいて販売活動を拡充する。今期、AVSSの生産技術と体制の改善により、フェアトレードで扱う上質なモリンガ粉末や手工芸品の供給は可能となるが、新型コロナウイルス感染症の影響があり、販売網や市場マーケティングの強化は段階的に行う。

### 2. 食品加工事業

日本においてモリンガパウダー、モリンガ塩の販売を拡充するため、インドからモリンガ粉末とヒマラヤ岩塩の供給を受けて、小分け、ブレンド、シーリング、ラベリングの加工作業を行う。

### 3. 演奏会、展示会、図書出版等の文化事業

新型コロナウイルス感染症の収束が見られ次第、画展、写真展、パネル展示の企画・実行する。

### Ⅲ. 事業の実施に関する事項

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1.農村開発・農業開発支援事業	持続可能な農業・農村開発・収入向上事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	農村住民 30万人	749
2.人材育成支援事業	①持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	研修生 4名、研修生の活動地の農村住民各 1,000名	135
	②僻地農村学校の自立運営に向けた総合的教育支援事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	2名	農村児童 100人	64
	③裁縫学校の運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援	通年	インド・プラヤグラージ地区	3名	農村女性 1,000人	802
	④農村保健衛生改善支援事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	6名	農村住民 30万人	2,845
	⑤農村女性所得創出・地位向上支援事業	通年	インド・プラヤグラージ地区	7名	農村住民 30万人	10,924
3.事業を推進するための調査研究、及び啓発・広報事業	①インターンシップ研修及びワーキングキャンプの開催・研修ツアー・訪問者受入	年2回	日本	7名	日本 300人	635
	②会報の発行	年3回	日本、インド	7名	日本、インド 延べ 1,000人	180
	③次期事業形成調査	随時	日本、インド	2名	日本、インド	40
4.災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業	緊急支援活動事業	随時	日本、インド	7名	日本、インド	0

#### (2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	事業費の金額(千円)
1.バザー・チャリティ・販売事業	バザー出店、収入向上支援、調査、販売、新製品開発	通年	日本、インド	7名	1,726
2.食品加工事業	モリンガ粉末等の食品加工	随時	日本	2名	250
3.演奏会、展示会、図書出版等の文化事業	絵画展等実施	随時	日本	3名	14